１．平成２３年度の主な動き

【運営委員会】

平成23年度は、学術情報総合センター運営委員会を５回開催し、予算編成に向けた重点要望のほか、下記案件等の運営にかかる重要事項の審議を行った。

・平成23年度計画の進捗状況及び平成24年度計画の策定について
・利用者アンケートに基づいた、24年度からの新しいサービスについて
・大阪市立大学ＩＣＴ化基本構想について

【センター教員組織】

外国人研究者の招聘ならびに関連研究会に関して、以下のとおり多くの活動を行った。

海外からの研究者としては、平成23年10月28日から11月18日にMassimiliano Cannata氏（SUPSI；スイス）を招聘し、同氏による講演「Sensor Observation Service using GPS」を開催、ならびに共同研究に関する多くの議論が行われた。

また、平成23年11月7日から14日にFrans Thamura氏（メルビン財団：インドネシア）、Maning Sambale氏（フィリピンESSC：フィリピン）を招聘し、平成23年11月11日-12日にATC大阪で行われたFOSS4G 2011 Osaka（関西オープンソース2010同時開催）で、オープンソース地理空間技術の国際動向に関しての多くの議論および基調講演を行った。平成23年11月9日には大阪市立大学梅田サテライトにおいて関連ワークショップを開催した。

また、平成24年1月16日から23日にXianfeng Song氏（中国科学院研究生院・中国オープン地理空間情報シナリオ責任者：中国）ならびにXiaoping RUI氏（中国科学院研究生院：中国）を招聘し、平成23年1月19日にはFOSS4G研究会を大阪市立大学梅田サテライトにおいておこない、「Soil Depth Mapping with Remote Sensing, GIS and Fuzzy Logics」（Song氏）、「A DEM Generation Algorithm from Contour Lines Considering Geomorphic Features」（RUI氏）の講演をおこなった。

【図書部門】

学生との協働事業として、平成23年11月30日にジュンク堂書店大阪本店において、大学院学生7名、学部学生2名の計9名で学生選書ツアーを実施し、参加者による学生選書購入決定会議を経て、227冊の図書を選定した。学生選書図書は、学生が作成した展示用ＰＯＰとともに新着図書展示コーナーに配架した結果、試験期間にも関わらず3週間で165冊の貸出があり、好評であった。以降、3階の開架閲覧室の一角に学生選書コーナーに配架し、利用に供している。

施設整備事業としては、国の「住民に光りをそそぐ交付金」を獲得し、知の地域づくりのため、資料購入と卒業生著作コーナーの設置を行った。特に本学卒業生で芥川賞作家の故開高健の著作を集めた開高健コーナーを特別に設け、大学院生や学生に対しては、開高健の作品を知ってもらうため書評コンクール（6名の入賞）の実施、在学生、卒業生、市民に対しては平成23年10月31日～11月12日まで卒業生著作コーナー開設記念「先輩 開高健 展」を開催した。

そのほか、平成23年4月にはサイレントエリア（4箇所）の設置およびコイン式コピー機1台の導入、10

月からは順次インターネット接続可能エリアの拡大を行い利便性の向上を図った。

また、平成24年4月にオープンする新しい学習スペース「ラーニングコモンズ」の設置のため、5Fメディア室の施設改修や家具の設置も行った。

研修事業としては、国立情報学研究所との共同開催の目録システム地域講習会を8月17日から19日までの3日間開催した。近畿地区の国公私立大学や短期大学及び公共図書館からの受講生24名の参加があり、本年度は、雑誌目録についての研修を行った。

【情報処理部門】

第二期中期計画の実施に先立ち、学内ＩＣＴ化に向けた基本構想の検討を行い、「大阪市立大学ＩＣＴ化基本構想」を策定した。その基本構想を実現するための推進体制についても検討を行い、本学における情報関係の責任者として、ＣＩＯ（情報統括管理責任者）及びＣＩＳＯ（情報セキュリティ統括責任者）の設置を決定し、平成24年度にＩＣＴ化推進体制の整備を行うこととなった。

また、文部科学省の平成21年度補正予算の研究拠点形成費等補助金（教育研究高度化のため支援体制整備事業）を利用して導入した「全学認証システム及び全学ポータルシステム」について、関係各課と調整を行い、利用拡大を図った。

【医学分館】

4月より、利用者の要望が高かったコイン式コピー機1台を設置し、開館時間変更日の貸出や開館時間中のブックポストへの返却を可能にすることで利便性の向上を図った。

7月には、学生の利用が集中する図書を館内閲覧用として一冊別置し、いつでも利用できるようにしたStudent Shelfを設けた。

所蔵資料を活用してもらうために、新着図書展示以外に「災害と医療・看護」を始めとした企画展示を積極的に行った。また、昨年度に引き続き学生選書を実施し、学生図書委員と分館長との懇談会も実施した。

学部学生及び大学院学生に対しては、授業時間内に学年別・段階別の利用指導を行った。医学分館主催の講習会は、昨年度少人数での講習が好評だったので、医中誌Web・PubMed・EndNote Webについて入門編の講習を少人数で数回ずつ行った。また、看護学研究科院生の要望に応じオーダーメイド講習会を開催した。

【恒藤記念室】

平成22年度より、大学史資料室を中心とした都市問題研究「大阪市立大学と恒藤恭―都市が大学をもつ理由の歴史的研究―」に参加し、平成23年12月にシンポジウム「近代日本の都市と大学―創設期大阪市立大学と恒藤恭―」を開催するとともに、平成24年3月に『恒藤記念室叢書2　恒藤恭滝川事件関係資料　神戸時代の井川（恒藤）恭）』を発行した。